

第3章 計画前半期の成果と今後の方向性

1 主な取組と課題

平成20年（2008年）12月に策定した本プラン（10年計画）は、取組を進めた結果、平成24年度（2012年度）までの前半5年で推進項目215項目のうち214項目に着手し、そのうち8項目を完了することが出来ました。

<京都市国際化推進プラン策定後に進めてきた主な取組>

- 屋外広告物の適正化等大胆な景観政策の推進
- 観光情報の多言語化や京都国際観光大使*を活用した発信、観光案内標識アップグレード推進事業*等の受入環境整備
- ジュニア京都検定*の充実、ジュニア京都観光大使*の任命
- 京都国際舞台芸術祭*の開催、京都会館等の整備
- ごみ減量や自然エネルギー導入等市民と進める環境の取組
- 姉妹都市交流事業やパートナーシティ提携の推進等、市民と協働で進める都市間交流の推進
- 世界歴史都市連盟加盟都市の着実な増加
- 姉妹都市青少年みらい環境会議*の開催
- 留学生向けホームページの充実やOB、OGのネットワークづくり
- 留学生優待プログラム*の拡充
- 日本語教室の開講支援をはじめとする国際交流ボランティアの推進
- 国際文化市民交流促進サポーター*による地域における国際交流事業の推進
- 外国籍市民等に対する防災訓練や対策の取組
- 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン*の開設
- 京都市国際交流協会による「京都地域外国人コミュニティ基礎調査」*の実施
- 在日コリアンの人々の体験、生活、文化意識を聞く機会の実施

- * 京都国際観光大使：京都ブランドの更なる展開に向け、海外で活躍されている京都通・京都ファン(文化・芸術・産業等の分野で活躍されている個人又は京都ゆかりの団体)を「京都国際観光大使」に任命し、海外に向けて京都の魅力を発信・PRしていただいている。
- * 観光案内標識アップグレード推進事業：「歩く観光」を推進するため、観光客や市民の視点に立った、分かりやすい観光案内標識の在り方についてまとめた「京都市観光案内標識アップグレード指針」に基づき、平成23年度(2011年度)から27年度(2015年度)までの5箇年計画で市内の観光エリアで観光案内標識の整備を進めている。
- * ジュニア京都検定：京都の優れた文化を継承していく子どもたちを育むため、小・中学生を主な対象に、「歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定」を平成18年度(2006年度)から実施し、子どもたちが知識と体験を通して京都について学ぶ機会を創出する取組を進めている。検定は、「基礎コース」、「発展コース」、「名人コース」の3つのコースを設定
- * ジュニア京都観光大使：「歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定」の「名人コース」において名人に認定された者の中から、特に優れた成績を収めた小・中学生を「ジュニア京都観光大使」に任命し、市内各地の文化・観光行事での発表や伝統文化等の体験活動を通して京都の魅力を発信・PRしていただいている。
- * 京都国際舞台芸術祭(KYOTO EXPERIMENT)：京都国際舞台芸術祭実行委員会(京都市、京都芸術センター、(公財)京都市芸術文化協会、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団)が主催する、国際舞台芸術フェスティバル
- * 姉妹都市青少年みらい環境会議：平成20年(2008年)に京都市の姉妹都市交流事業が50周年を迎えるに当たってのイベントとして、また、「京都議定書」が採択されたCOP3開催10周年を記念して、平成19年(2007年)8月に姉妹都市9都市から高校生を招聘し、「国際青少年みらい環境会議2007 in Kyoto」を開催した。平成24年(2012年)7~8月には同様に、姉妹都市9都市から高校生等を招聘し、「姉妹都市青少年みらい環境会議2012 in Kyoto」を開催した。
- * 留学生優待プログラム：京都で学ぶ外国人留学生に対し京都の文化への理解と愛着を深める機会を提供するため、文化施設等への入場優待や、文化体験・交流会などを実施している。
- * 京都市国際文化市民交流促進サポート事業：京都で暮らす多様な文化的背景を持つ外国籍市民等(個人若しくはグループ)を登録したうえ、市内の様々な団体の催しに派遣し、講演や文化紹介を通して、市民が外国の文化や生活習慣に触れる機会を増やすとともに、外国籍市民等が活躍できる機会を提供している。(国際文化市民交流促進サポーターは同事業に登録されている個人若しくはグループ)
- * 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン：平成23年(2011年)7月、南区東九条において、多くの外国籍市民を含む地域住民等による自主活動が活発に行われてきた地域特性に着目し、より幅広い住民を対象とした住民主体の地域交流及び多文化交流を深める各種事業を実施する拠点として開設
- * 京都地域外国人コミュニティ基礎調査：(公財)京都市国際交流協会が、京都地域で活動する「きょうと外国人支援ネットワーク」の協力を得て、平成23年度(2011年度)から24年度(2012年度)にかけて実施した、京都地域で暮らす外国籍市民等のコミュニティを把握するための実態調査。11のコミュニティのリーダー若しくはメンバーへのインタビューにより実施した。

<主な課題>

- 国際都市・京都としての、多彩な魅力の一層の向上と海外への情報発信の強化
- 多様な都市との市民主体の国際交流の促進
- 青少年をはじめとする、国際感覚を持った人材の育成の強化
- 外国籍市民等を含む、京都市民のニーズに的確に対応した情報の確実な伝達
- 地域における多文化交流の機会の充実及び促進

2 社会状況の変化

本プランの策定から現在に至る5年間で、本市を取り巻く社会状況は大きく変化しました。こうした社会変化を踏まえて、プラン後半期に取り組むべき施策の見直しや充実を図っています。

(1) アジア近隣諸国との国レベルでの課題を越えた、都市レベル、市民レベルでの友好関係の構築についての重要性の高まり

国際情勢の変化、とりわけアジア近隣諸国との関係は、国益を追求するうえで、国家間の関係が必ずしも良好ではない状況に陥ることがあります。このため、「世界文化自由都市宣言」を行い、全世界の人々が自由に集い、自由な文化交流を行う都市を目指す本市が、これまでも増して、アジア諸国をはじめより多くの世界の都市との友好関係を深め、市民一人一人が、お互いの都市及び市民を尊重する機運づくりを促進することは、世界の平和に寄与するとともに、その必要性、重要性も日々高まっています。

(2) 東日本大震災を契機とする社会の防災への関心の高まりと、外国人観光客、外国籍市民等を含めた安心・安全のまちづくりの推進

平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災は、東日本の各地に未曾有の大被害をもたらしました。この自然災害を契機として、日本国内だけでなく、海外においても日頃の防災意識が高まっているところです。年間80万人以上の外国人観光客が訪れ、約6千7百人の留学生をはじめとする4万人を超える外国籍市民、さらには日本国籍を持っていても多様な文化的背景を持つ人々が暮らす京都市においても、緊急時に適切な対応が行えるよう、日頃から防災意識を高め、訓練を行うなど災害に備える必要があります。

(3) 2020年東京オリンピック・パラリンピックや関西ワールドマスタースゲームズ2021*、ラグビーワールドカップ2019の開催等を踏まえた国際文化観光都市としての戦略的取組の強化

世界中から注目が集まるオリンピック・パラリンピックの平成32年(2020年)東京開催決定は、東日本大震災の悲劇から復興した日本の姿を世界の人々に披露する絶好の機会となります。京都市においても、平成31年(2019年)に日本で開催されるラグビーワールドカップ、平成33年(2021年)に開催される「関西ワールドマスタースゲームズ2021」と併せ、「日本人の心のふるさと・京都」、「日本の文化首都・京都」を世界に向けて強力に発信する好機ととらえ、京都の「おもてなし」を海外からの観光客などに十分感じていただくことのできる受入環境の整備、充実を図る必要があります。さらに国際ビジネス拠点としての魅力を向上するため、研究者、技術者、留学生をはじめとする高度人材受入環境の整備、京都へのアクセス向上のためのインフラ整備を強力に進めなければなりません。

(4) ソーシャルメディア*の普及など、情報通信技術（ICT）環境の更なる発展

フェイスブック（Facebook）やツイッター（Twitter）に代表されるソーシャルメディアは、今や現代社会において無くてはならない情報伝達手段となっています。ソーシャルメディアをはじめとする情報通信技術（ICT）は、日々、目覚ましい発展を遂げており、京都市においても、情報通信技術（ICT）を有効かつ積極的に活用することが求められています。

* 関西ワールドマスタースゲームズ2021：4年に1度の生涯スポーツの国際総合競技大会。生涯スポーツの普及と振興、健康志向の活力ある高齢社会の実現を目指し、2021年大会を、関西地域で開催することが決定された。

* ソーシャルメディア：利用者の発信した情報や利用者間のつながりによってコンテンツを作り出す要素を持ったWebサイトやインターネットネットサービスのこと。代表的なサービスとして、Facebook、Twitter、YouTube等がある。

3 見直しの視点・方向性

本プランの策定から5年の中間地点を迎え、策定以降の社会状況の変化を踏まえるとともに、本改訂版は、次の3点の視点・方向性に基づき、見直しを進めました。

①「京都の魅力の向上と発信」「国際交流・国際協力」「多文化共生」が一体となった国際化の推進

本プラン策定当初から、京都市が目指す国際化の目標として掲げられているものであり、この3項目が互いに重なり合い、補完し合っこそ、各種施策の取組がより効果的なものとなります。

②市民主体の活動の促進

京都市が目指す国際化の主役は京都市民であり、真の国際化は、市民一人ひとりの積極的な活動によって実現するものです。

③国際化・多様性が市民生活を豊かにするまちづくり

多様な文化を積極的に受け入れ、尊重し合い、京都が誇る歴史・文化の継承と新しい文化の創造を図ることにより、魅力あふれるまちづくりを進めます。